

モ中ロ経済回廊インフラ協力

モンゴル戦略研究所中国・東アジア研究センター研究員 B. オトゴンスレン

(要旨)

モンゴルは2001年に道路・鉄道の建設を目的とした「ミレニアムロード」事業を始めたが、外国投資と労働力の不足から、実施に向けた進行の歩みは相対的に遅い。2013年に政府は、中国とロシアの間に997キロメートルの高速道路と1,100キロメートルの電化鉄道を敷き、国内に石油・ガスパイプラインを巡らせる総額500億ドルの「陸の道」と呼ばれる新しいイニシアティブを提案した。引き続き次の政府もこのイニシアティブを支持し、中国イニシアティブ「一帯一路」と連動する計画を立てている。モンゴルは陸に囲まれているが、これが中国とロシアを結ぶ最短のルートである。

「包括的なモンゴル国家開発戦略に基づくミレニアム開発」には、エネルギー輸出と地域輸送サービスは、両隣の2国をつなぎ、アジアとヨーロッパの交通の「橋」となるような完全に新しい段階で開発されるべきであると規定されている。また、インフラ部門における民間部門の参加に対する支援が強調されている。モンゴル政府が進める鉄道輸送システム開発に関する政策は、鉱工業製品の輸出をただ1つの市場に頼らないようにすることを目標とする。このようにして、ロシアと中国向けの新しい鉄道ルートが作られている。

2015年3月に中国国家開発改革委員会、中国外務省、中国商務省で開発された「シルクロード経済帯と21世紀海上シルクロード」事業では、3カ国経済回廊には、中国の北京、天津、河北省、内モンゴル自治区、東北3省国境を越えてモンゴル・ロシアへと通じる道路および鉄道の計画がある。同時にロシアは、一方で国内資源を利用することで欧州各国の経済制裁から抜け出そうとしながら、他方ではアジア諸国との関係強化を図っている。このようにして、極東及びシベリアの天然資源に向けた外国投資は、非常に重要な影響をもつ。

本稿では、モ中露経済回廊の枠組みの中で、インフラに対する3カ国の連携について述べたい。

[英語原稿をERINAにて翻訳]